



創立120周年

東京歯科大学広報



継承と発展 東京歯科大学創立120周年

東京歯科大学創立120周年記念 ロゴマーク決定

本学は1890年、わが国最初の歯科教育機関である高山歯科医学院として創立され、2010年に創立120周年を迎えることとなりました。120年は人間の年齢で例えると大選暦という大変記念すべき年にあたるといわれております。本学は「継承と発展」をメインテーマとして、創立120周年記念事業を執り行う運びとなりました。事業の内容等につきましては、詳細が決まり次第、お知らせしていく予定ですが、創立120周年を記念したロゴマークが決定いたしましたので、ここにご報告させていただきます。

本ロゴマークは従来使用されているものを基本として新たに選定いたしました。T・D・Cのモノグラムは高山歯科医学院の頭文字で、1890年から2010年、そして未来へと、まさに継承・発展をしながら歩み続けている本学を象徴するものであります。

2007年 10・11月

227号

本号の主な内容

- ・東京歯科大学創立120周年記念 ロゴマーク決定
- ・創立120周年を迎えるにあたって 井上 裕理事長、金子 譲学長 挨拶
- ・訃報 瀬端正之名誉教授ご逝去
- ・延世大学校歯科大学との姉妹校締結協定再延長

創立120周年を迎えるにあたって

学校法人 東京歯科大学

理事長 井上 裕

本学は我が国最古の歯科大学として、一世紀を越えた歴史と伝統を刻み、常に発展を続け、歯科界における優秀な歯科医師・歯科医学者を育成、輩出してまいりました。創立者高山紀齋先生と建学者血脇守之助先生が築かれた歯科医学・歯科医療における金字塔は多くの優れた先達により受け継がれ、この伝統は、未来永劫に継承し、今後もさらなる歯科医学・歯科医療の発展へと導くことになるでしょう。

本学は、平成22年に創立120周年を迎えます。120周年は、干支で言うところの「大還暦」にあたり、節目として大きな意義を持っています。この大きな節目の年を迎えることを先達に感謝するとともに、日本最古の歯科大学として、また、本学が歯科界のリーダーとして培ってきた伝統を広く公開し後世に継承していくため、「継承と発展」をメインテーマとした記念事業を開催することになりました。

本学はこれまで、90周年、100周年と伝統ある歴史の節目ふしめに高山先生、血脇先生、そして本学の基盤を築き発展に尽力された多くの先達への感謝の意をこめ、記念事業を開催してまいりました。昭和55年の創立90周年は、千葉校舎への移転が主な事業であり、翌56年に千葉校舎竣工時の落成式典と併せて記念事業を開催しました。平成2年の創立100周年は、記念式典を天皇皇后両陛下のご臨席のもと挙行し、水道橋校舎（TDCビル）の新築、血脇先生の顕彰、市川総合病院の新築、御殿町グラウンドの取得・造成、記念誌の編集と多くの事業を展開いたしました。110周年については、学内外の様々な情勢により実施することは叶いませんでしたが、120周年の記念事業の開催にあたっては、本学同窓会、並びに父兄会の皆様の絶大なるご支援、ご協力を賜り、法人役員、全教職員、学生が一丸となって記念事業の成功に向け、尽力していきたいと思っております。

東京歯科大学

学 長 金子 謙

東京歯科大学は、近代歯科医学の先覚者である高山紀齋先生が明治23年に東京の芝区伊皿子町に高山歯科医学院を創設してから、平成22年に120周年を迎えようとしています。

この間、本学は血脇守之助先生によって建学された東京歯科医学院、東京歯科医学専門学校、旧制東京歯科大学、そして現在の新制東京歯科大学と我が国の歯科医学教育のパイオニアとして幾多の努力をしながら発展してきました。また、平成2年に執り行った100周年記念事業の際には、記念式典に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り我々は次の時代へ向けての決意を新たに致しました。

120周年という年月は人間に例えるならば大還暦という大変記念すべきものであり、本学にとっても非常に大きな意義を持つものであります。この創立120周年を機に今一度、創立時の原点に戻り、創立当時から現在までの本学の歴史を振り返り、建学の精神を再確認することが必要であると考えます。本記念事業のメインテーマを「継承と発展」と致しましたが、これは国を動かし、歯科医学、歯科医療制度の発展に大きく寄与してきた本学の伝統を未来へ継承し、歯科界の先導としてさらなる発展を遂げていく本学の未来像を意味したものであります。

不透明な21世紀ではありますが、このような時代の中でこそ、人材育成の任を背負っている大学の責任は重いものがあります。その責務を果たすためには、本学が希望に満ちた将来展望を描き、そして次の時代にリレーランナーの如くつなげていくことが重要であると考えます。120周年記念事業をその契機ととらえ、本学関係者一人一人が創造性を発揮し、そして熱意と柔軟性を持ちながら推し進めていっていただきたいと思っております。未来は現在のつながりであります。創立120周年に向かって皆さんと共に「東京歯科大学の明日」を考えていけたらと思っております。

第39回東歯祭開催

第39回東歯祭が平成19年11月3日(土)・4日(日)の2日間にわたり開催された。今回の東歯祭は、「Go(ゴウ)華(カ)Can(ケン)Run(ラン)」のテーマの中、黄地健仁実行委員長(3年)を中心に約60名の実行委員が一丸となって、企画・準備・運営にあたった。両日とも天候に恵まれ、2日間を通して約3,000名を動員し大盛況の大学祭となった。



朝陽のもと、第39回東歯祭が始まる：平成19年11月3日(土) 千葉校舎正門

興味津々の展示コーナー

例年、本学では、大きく分けて2種類の展示が行われている。まず、学生が講座の協力を得て行う、いわゆる「講座展示」と文科系クラブが主体となって、学生が日頃のクラブの活動成果などを発表する「クラブ展示」である。

「講座展示」では、例年以上に学生と教員が一体となって展示を作り上げており、法人類学研究室の展示における「顔診断」など、来場者が自ら参加しながら楽しめる展示も見られた。「クラブ



パソコンはいまや、1人1台の時代に。コンピュータ部員による熱心な説明：平成19年11月3日(土) 千葉校舎教養棟2階

展示」においても、国際医療研究会におけるアジア各国での活動内容の紹介に加えて、コンピュータ部、写真部、美術部白亜会、自然愛好会などが参加した。各クラブは自分達の活動成果を、プレゼンテーションや、レイアウトに工夫をこらして来場者を楽しませた。展示においては、東歯祭に懸ける学生たちの熱意を感じ取ることができた。

また、今回の東歯祭では、文科系クラブだけではなく運動系各クラブも日頃の活動内容を展示しており、来場者は興味深げに展示一つ一つを覗いていた。

様々な企画も目白押し

3日には千葉校舎講堂において「桜塚やっくん」「弾丸ジャッキー」のお笑いライブショーが行われ、4日には「ゲキレンジャー」ショーが中庭ステージにて行われた。いずれも多くの人を集めて盛り上がった。グラウンドにおいては、恒例のフットサル競技会が開催され、学内から多くの参加者が集まり2日間にわたって熱戦を展開した。この東歯祭は、日頃の成果を披露する絶好の機会ともいえ、講堂ではその他に、混声合唱部の定期公演会や管弦学部の公開リハーサル、演劇部による公演などが催された。

厚生棟前における野外ステージでは、ダンス部やBIG BAND JAZZ部が日頃の成果を披露し、変わったところでは「筋肉東歯番付」「男のミスコンテスト」といった企画も行われ、来場者の関心を引いていた。



「桜塚やっくん」を見に来た来場者に、整理券を渡す実行委員：平成19年11月3日(土) 千葉校舎講堂

また、例年好評の大学院学生会による「無料歯科相談」歯科衛生士専門学校による「ブラッシング指導」も多くの来場者から関心を集めていた他、3日には入試ガイダンスも行われ、多くの受験生と保護者が参加した。(詳細は8ページ)

連日賑わった模擬店

各クラブなどによる模擬店が15店出店され、連日賑わいを見せた。今年も各クラブ、創意工夫を凝らしており「ハニートースト」(卓球部)「ラップサンド」(バスケットボール部)「玉こんにやく」(自然愛好会)と言った新メニューに挑戦するクラブ・団体もあり、人だかりを作っていた。また夕暮れ時の肌寒い時には、「おそば」(自動車部)や「豚汁」(ボウリング部・硬式庭球部)が良く売れ、来場者の身体を温めていた。他のクラブ・団体も先輩から受け継がれた「伝統の味」で勝負するなど今年の東歯祭をいどっていた。



“美味しくてヘルシー”「玉こんにやく」を売る自然愛好会会員：平成19年11月3日(土) 千葉校舎厚生棟前



「焼きうどん」を豪快に作る硬式野球部員：平成19年11月3日(土) 千葉校舎中庭

感動を呼んだ後夜祭

4日午後5時30分から、厚生棟前野外特設ステージにて金子 譲学長をはじめとする大学幹部およ

び教職員、青木栄夫父兄会長ご出席のもとに後夜祭が行われた。まず始めに、金子学長より挨拶と総評が述べられた後、大学への記念品として、花束が黄地健仁実行委員長から金子学長に手渡された。その後、展示部門・模擬店部門の優秀団体を金子学長が発表、そして賞状を授与した。また、井上 孝国際渉外部長より昨年度から始まった英語ポスターコンペティションの表彰も後夜祭にて行われた。(表彰団体・表彰者は下記のとおり)

そして、日も暮れた暗闇の中で、実行委員を代表して黄地実行委員長が演台の中央に立った。黄地君を始め、実行委員会の執行部のほぼ全員が、東歯祭の実行委員として携わること3年目。その万感の想いを込めての挨拶をしている黄地君の姿は、勇ましく印象的であった。

最後は、教職員・学生が声を合わせて校歌を斉唱、薬師寺 仁副学長による乾杯の発声で東歯祭は終了した。



大学への贈り物は、「豪華絢爛」を象徴した花束。黄地実行委員長より金子学長へ：平成19年11月4日(日) 千葉校舎中庭

クラブ展示部門

- 第1位 国際医療研究会
- 第2位 延世大学校歯科大学との学生交流
- 第3位 自然愛好会

講座・研究室展示部門

- 第1位 法人類学教室
- 第2位 法歯学講座
- 第3位 薬理学講座

模擬店部門

- 第1位 バレーボール部「チョコバナナ」
- 第2位 MLS「ザ・どん」
- 第3位 歯科衛生士部「焼きそば」

英語ポスターコンペティション

- 優勝 高本愛子さん(3年)

「第39回東歯祭を終えて」

東歯祭実行委員長・黄地健仁君

「東歯祭の成功をもって多くの方々へ日々の感謝の意を示したい...」

東歯祭を前日に控えた、当時の私の心の中はこの思いでいっぱいでした。寒さも厳しい日々が続きますが、11月3日・4日に第39回 東歯祭を無事終えることができました。今年のテーマは「Go華Can Run(豪華絢爛)」であり、歴史ある東歯祭をもう一度見つめ直し、例年にも増して華やかな東歯祭を、そして更なる大きなステップを踏み出すそんなきっかけの年にしたいと願い、実行委員一同取り組んできました。

私は1年生の頃から東歯祭に関わってきましたが、将来歯科医療の場において多くの方々に関わりゆく自分達は、他の大学の大学祭とは違う「色」を出す必要性・責任、そしてそこには魅力が存在すると強く感じてきました。それは、この東歯祭が歯科医療の場とともに近隣の方々とのコミュニケーションの場であり、何より日々の感謝の場であると感じるからです。また私達東歯祭スナッフ

歯科学生の日々の姿勢・努力・表現力を示す最たる場ではないでしょうか。「歯科医師」という枠を超え「人間」として向き合える場が、先程述べたこの東歯祭の魅力であり「色」と感じ、そして今後もそうあり続けることを願って止みません。

今年度は例年にも増して多くのプログラムを試み、近隣の方々もたくさん来校していただき、実行委員一同達成感と安堵感に満ちています。多くの「汗」と「涙」と「笑顔」と「感謝の意」がこの成功を作り上げ、東歯祭終了後もなお絶えず溢れ続ける今、この日々幸せを感じ、いつの日かそれが「歯科医師」というものを築き上げると信じて、これからも歯科医学の探求と進歩に励みたいと思います。

最後になりましたが、来校して下さった近隣の方々、父兄の皆様、各講座の先生方、施設課、警備の方々、学生課、東歯祭に関わって下さった全ての方々へ、この場を借りて感謝いたします。



「私、キレイ?」女性も顔負けの「男のミスコンテスト」：平成19年11月3日(土) 千葉校舎厚生棟前野外ステージ



軽やかなハーモニーを奏でたBIG BAND JAZZ部：平成19年11月3日(土) 千葉校舎中庭



ステージ上で熱唱する合唱部：平成19年11月4日(日) 千葉校舎講堂



ラインアウトのボールを懸命に取るラグビー部員：平成19年11月4日(日) 千葉校舎グラウンド

教授就任のご挨拶



歯科矯正学講座

末石 研二

このたび、教授会のご推挙により、本年10月1日付けで東京歯科大学歯科矯正学講座主任教授を拝命いたしました。もとより浅学非才にて、その重責に身の引き締まる思いであり、今後も教育、研究、臨床に研鑽を励んで参りたいと思います。

大学を卒業して以来、故瀬端正之教授、一色泰成名誉教授、山口秀晴前教授および谷田部賢一口腔健康臨床科学講座前教授に師事し、千葉病院および水道橋病院にて矯正歯科の専門医としての研鑽を積んで参りました。その間に歯科矯正治療は青少年期が中心であった時代から中高年を含む幅広い世代を対象としたものに様変わりをしています。患者が抱える問題も齲蝕から歯周病、多数歯の補綴やインプラント、顎顔面の形成異常など大きく変化し、より多くの知識と技術が求められています。診療では、高い専門的技術と医療安全の構築を行うとともに、包括的歯科治療における矯正歯科の役割を確立する必要があります。院内他科との協力体制を確立し、保存、補綴、インプラント科等と高度な歯科医療の一翼を担う必要があると考えています。学生教育では不正咬合の診査診断能力の基礎を修得させ、また、臨床研修では不正咬合患者にたいしての基本的な対応能力の育成を

図りたいと考えています。研究においては講座が行ってきた顎顔面形態と口腔機能の関連に関する研究やFEMを用いた生力学解析の矯正治療への応用など幅広いテーマを踏襲しつつ、発展する歯科矯正臨床に対応するエビデンスとなる臨床研究とそれを裏付ける基礎研究を是非発展させたいと思います。

これら多くの課題に、講座、診療科一同を挙げて精進する所存ですので、これからも何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

- 昭和54年 3月 東京歯科大学卒業
- 昭和54年 5月 第65回歯科医師国家試験合格
- 昭和54年 6月 歯科医籍登録 第78121号
- 昭和54年 4月 東京歯科大学歯科矯正学講座特別研究生
- 昭和57年 4月 東京歯科大学歯科矯正学講座 助手
- 平成 2年 9月 日本矯正歯科学会認定医制度による認定医(第630号)
- 平成 3年10月 日本矯正歯科学会認定医制度による指導医(第295号)
- 平成 7年 7月 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科へ配置換え
- 平成10年 9月 博士(歯学)の学位受領(東京歯科大学)
- 平成14年 4月 東京歯科大学歯科矯正学講座 講師
東京歯科大学千葉病院矯正歯科へ配置換え
- 平成17年 3月 東京歯科大学歯科矯正学講座 助教授
- 平成17年 4月 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座 助教授
- 平成18年 4月 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科科長
- 平成19年10月 東京歯科大学歯科矯正学講座 教授

准教授就任のご挨拶



口腔健康臨床科学講座
(口腔インプラント学分野)
関根 秀志

平成19年10月1日付けを持ちまして、東京歯科大学口腔健康臨床科学講座准教授を拝命いたしました。これまで、昭和62年に歯科補綴学第三講座(局部義歯学)に入局以来、諸先輩方をはじめ多くの方々からご教授、ご指導をいただき、研鑽を積んでまいりましたが、平成15年より水

道橋病院に新設されました口腔インプラント科の科長を勤めさせていただいておりました。この度、准教授の命を頂戴し、その重責に身の引き締まる思いであります。

近年、欠損歯列の回復方法のひとつとしてインプラント治療の適用頻度は徐々に高まりつつあります。水道橋病院口腔インプラント科では、常勤スタッフに加え臨床教授の先生方とともに、日々、診療に従事いたしております。もとより、インプラント治療は包括的歯科医療であるとの認識に基づき、関連各科、スタッフ等と緊密な連携を図りながら患者様ごとに異なるニーズを的確に把握したきめ細やかな対応を心がけております。最近では、一般的なインプラント治療に加え、骨質・骨量の不足など従来ではインプラント治療の適用は困難であった症例、あるいは

全身的な既往により、インプラント治療におけるリスクが高いと診断される症例などへの対応の機会も増加しております。一方、残念ながらインプラント治療に伴う不具合、偶発症につきましても、少なからずご相談を頂戴する機会がございます。インプラント治療は、まだまだ学問としての歴史が浅く、臨床経験にもと基づいた治療に終始している現状があることを踏まえ、日々の臨床から、科学的な根拠となるデータを集積し、東京歯科大学からの臨床指針の発信の一端を担いたいと考えている次第です。

また、安全で確実なインプラント治療の実践とともに、インプラント治療を基礎から学ぶ講義・実習などの研修活動にも力を注いでいく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒、よろしく願い申し上げます。



市川総合病院
精神・神経科
吉野文浩

この度、教授会のご推挙により、平成19年11月1日付けをもちまして、市川総合病院精神・神経科准教授を拝命致しました。身に余る光栄でありますとともに、身の引き締まる思いが致します。また、その責務の重大さを痛感しております。

近年、うつ病や自殺をはじめとするストレスに関連した心の問題が増加し、多発する自然・人為災害においては、物理的な支援とともに、精神面の救済の必要性が叫ばれるようになりました。このような社会背景のもと、これまでは個人の問題として扱われがちでした「心」の問題が、学校、企業、地域が取り組むべき最優先課題の一つとしてとりあげられるようになりました。今世紀は「心の時代」であるなどとも言われておりますが、人の心にアプローチする一つの方法として、精神医学に対する関心も強くなっ

てきているように思われます。

精神医療の対象領域は広く、教育、産業、福祉の現場との接点が多いため、地域の諸機関との連携が大切であります。当科のような総合病院の中の精神科は、緩和ケアをはじめとするリエゾン診療を活発に進めて行くことも重要であり、病院内での連携も、これまで以上に重視したいと考えております。

教育につきましては、一般の診療場面でみられやすい精神医学的な問題に対する理解が深まるような教育を目指したいと考えております。また、臨床研修指導におきましては、プライマリーケアの段階で、精神医学の知識が実践的かつ有効に活用できる臨床医を養成していきたいと考えております。

微力ではございますが、本学の教員の一人として、少しでも皆様のお役に立てるよう精一杯努力したいと存じます。今後共、御指導ならびに御鞭撻を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

学内ニュース

博士(歯学)学位記授与

第566回(平19.10.17)授与

第548回(H18.2.15)合格

鏡 明 祥(生化学・甲)第1666号・甲962号

第549回(H18.3.15)合格

柳 澤 光一郎(補綴・甲)第1676号・甲972号

第558回(H19.1.17)合格

高 倉 克 博(オトリクシ・口外・甲)第1709号・甲992号

第256回大学院セミナー開催

平成19年10月2日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第256回大学院セミナーが開催された。今回は新潟大学大学院歯学総合研究科の朔 敬教授を講師にお迎えし、「細胞活動の足場としての間質空間」と題する講演をうかがった。

ヘパラン硫酸プロテオグリカン(パールカン)は結合組織の細胞外マトリックス(ECM)の主要成分の一つであり、特に基底膜ではラミニンや型コラーゲンなどと共に巨大分子複合体を作っている。講演では、はじめにパールカンの分子構造と機能について分かりやすく解説された。次に組織発現に関して、免疫組織化学およびin situ hybridizationを用い検索したところ、唾液腺様嚢胞癌の実質、歯胚エナメル器星状網、あるいはエナメル上皮腫などの上皮系の細胞間隙にも多量のパールカンが見いだされた。朔教授はこの事象に対して「上皮内基質」と呼ぶ間質の新たな概念を提唱した。これにより細胞の増殖、分化、接着、運動など複雑な生命現象の理解が今後一層深まるものと期待される。さらに講演



講演される朔教授：平成19年10月2日(火)、千葉校舎第2教室

では、通常のHE染色では診断が困難とされる上皮内癌の症例が呈示され、パールカンなどECMの抗体を用いた免疫染色診断の有用性についても言及された。多数の大学院生と教員の参加のもと活発な討論が行われ、内容の濃い有意義なセミナーであった。

入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成19年度入試ガイダンスが平成19年10月6日(土)に午後2時から水道橋校舎血脇記念ホールで開催された。11月3日(土)には午前11時から千葉校舎で開催された。

水道橋校舎で開催されたガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の歴史・教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、卒後進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成17年度文部科学省より選定を受けた特色GP、現代GPの概要等について紹介し、また、平成20年度入学試験の概要や入試科目のポイントについて説明した。その後、水道橋教職員の案内により病院見学を行い、希望者については教務部・学生部の教員との個別面談を実施した。当日は34名の参加があり、個別面談希望者の行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れた盛況なガイダンスとなった。

千葉校舎で開催されたガイダンスは、東歯祭期間中の平成19年11月3日(土)午前11時より千葉校舎第2教室において実施された。本年度の「模擬授業」は、柴原孝彦教務副部長、茂木悦子学生副部長が担当し、大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容の一端を紹介した。続いて、入試概要・入試科目のポイント・学生生活・大学案内の説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。学内見学では、実習講義室、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館史料室、千葉病院受付、診療室などを回り、解剖学講座、教職員の協力のもとに、東歯大の伝統、貴重な史料や標本、充実した設備等を示すとともに、本学の無線LAN環境、CBT用PCの設置環

境など充実した情報関係設備・環境については、参加者に実際にPCを操作、体験してもらった。なお、参加者には昨年に引き続き東歯祭の模擬店利用券を配付し、東歯祭の雰囲気を楽しんでもらった。



入試ガイダンスで挨拶をする小田教務部長：平成19年11月3日(土) 千葉校舎

第21回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成19年10月13日(土)、14日(日)、千葉校舎実習講義室およびホテルグリーンタワー千葉において、第21回カリキュラム研修ワークショップが開催された。今回は、本務教員の他、本学同窓、及び財団法人 歯科医療研修振興財団の研修案内等により参加した47名を対象とし、カリキュラム・プランニング、問題点の解決法に関する8つのセッション、3つのレクチャーからなるプログラムが歯科医療研修振興財団との共催にて実施された。6グループに分かれ、限られた時間内に討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップに参加した受講者からは、「カリキュラム立案の考え方と指導の基礎知識を身につけることができた」「教育・臨床における問題について考えるヒントを得ることができた」等の感想



総合討論にて発言する受講者：平成19年10月14日(日)、千葉校舎第2教室

が挙げられた。最後に、受講者に修了証書が授与され、2日間の日程を終了した。本ワークショップを今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実ならびに歯科医師臨床研修における指導歯科医の充実を目指している。

第257回大学院セミナー開催

平成19年10月17日(水)午後5時より千葉校舎教養棟第6教室において、第257回大学院セミナーが開催された。今回は米国のHarvard Medical School, Massachusetts Eye and Ear Infirmary, Department of RadiologyのHugh D. Curtin教授を講師にお迎えして「Landmarks for Imaging of Head and Neck Cancer」と題する講演をうかがった。

Curtin教授は、頭頸部画像診断の世界的権威である。Curtin教授は、卓越した臨床解剖学の素養を基に非常に繊細で丁寧な画像診断をされると同時にその画像診断学の臨床研究に関する論文や著書は枚挙に暇がない。頭頸部は他の領域に比べ解剖構造が複雑であり、画像診断に苦慮することが多いとされている。今回の講演では、頭頸部の悪性腫瘍の画像診断について筋膜および隙を中心に見据えた体系的で理論的なお話をしていただいた。日常の画像診断および臨床研究に益する大変貴重な講演であった。



講演されるCurtin教授：平成19年10月17日(水) 千葉校舎教養棟第6教室

「大学と同窓会クラス代表との懇談会」を開催

「第3回大学と同窓会クラス代表との懇談会」が平成19年10月18日(木)に水道橋血脇記念ホールにて開催された。平日の15時開会ということにもかかわらず、各卒業年次の同窓会代表者ならびに同伴者約90余名もの参加を得て、同

窓の先生方の大学への関心の深さを実感した。

当懇談会は現在の大学の現況を同窓生に幅広く周知するという目的で一昨年第一回が開催された。昨年同様大学から井上 裕理事長、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、井出吉信副学長、石井拓男千葉病院長が出席した。

薬師寺副学長の開会の挨拶に続き、まず井上理事長から大学の社会的責任、財政状況、役職者の改選、120周年記念事業についての説明があり、「今後も同窓生の理解や支援を頂き、この懇



資料を元に「大学の現況」を説明する金子学長：平成19年10月18日（木）血脇記念ホール



熱心に説明を聞く参加者：平成19年10月18日（木）血脇記念ホール



懇親会で挨拶をする最年少の同窓・石岡みずき臨床研修歯科医：平成19年10月18日（木）東京ドームホテル

談会を通して大学の現状を良く理解していただくとともに、ご意見やご要望を遠慮無くお聞かせ頂き、実りのある懇談会にさせていただきたい。」との挨拶があった。

つぎに金子学長は昨年度から現在までに大学が行った新規事業、120周年記念事業に伴う教育施設の移転、姉妹校締結など、「大学を取りまく諸問題と大学の現況」というテーマに沿って資料を元に詳しく説明された。

続いて井出副学長から「学生教育の現状と国家試験ならびに修学指導方針」について、石井千葉病院長から「東京歯科大学千葉病院における臨床研修について」について説明があった。

参加者からは、「さまざまな年代の同窓が集まれる良い機会だ」「会の内容をメールで送ってほしい」「女性の参加者が多くなると良い」など多くの声が寄せられた。懇談会終了後、東京ドームホテルに会場を移した懇親会では、参加者各位が和やかに歓談され、第3回大学と同窓会クラス代表との懇談会は盛会裡に終了した。次回は来年10月15日（水）に開催予定である。

第284回東京歯科大学学会総会開催

平成19年10月20日（土）・21日（日）の両日、千葉校舎と水道橋校舎において東京歯科大学学会総会が開催された。

初日の口演は第1・2教室、示説はラウンジ2・3を会場として発表された。今回発表された口演は41題、示説は31題であった。午後からは平成19年度東京歯科大学学会評議員会・総会が第1教室にて開催された。また、講堂において次の3題の特別講演が開催された。

1. 「人の手と脳の関わり」高橋正憲教授（東歯大・市病リハビリ科）
2. 「少子社会の小児歯科 - 口腔領域を通しての育児支援 - 」薬師寺 仁教授（東歯大・小児歯）
3. 「ハッピーライフ『学びの歩み』」奥田克爾教授（東歯大・微生物）

第2日目は水道橋校舎の血脇記念ホールを会場として、今回で最後となるインプラントシンポジウムが午前10時より午後1時まで開催された。その後、昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科の高橋浩二教授による「摂食・嚥下傷害のマネジメント最前線 - 効果的なスクリーニング

法と対応法とは - 」と題した招待講演と姉妹校である延世大学校歯科大学と台北医学大学口腔医学院との共同シンポジウムが「歯科インプラントの最新トピックス」と題して同時通訳付きで行われた。



熱心に聴講されるインプラントシンポジウム参加者：平成19年10月21日（日）血脳記念ホール



金子学会長より感謝状を授与されるインプラントシンポジウム演者：平成19年10月21日（日）血脳記念ホール

第67回歯科医学教育セミナー開催

平成19年10月22日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第67回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「受験生から見た歯科系大学・学部の評価 - 入口、出口、中身に対する見え方 - 」と題し、河合塾 教育研究部 谷口哲也氏よりご講演をうかがった。

まず始めに、今後受験生を確保していくにあたり歯科系大学にとって問題となる点について、歯科医師の過剰感から志願者が医・薬学系に流れてしまう可能性や「治療」から「予防」への変化、歯科医師のマナー、OSCEによる評価等を踏まえた臨床実習・研修の充実化の必要性等を厚生労働省 歯科医師臨床研修推進検討会の報告と併せ説明された。

次に、大学の教育内容に関する分析について

は、特色GP、現代GPの採択状況から医学部と歯学部を対比して説明され、採択件数、取り組みの内容等から医学部に比べ歯学部は遅れをとっている印象を受けるとのことであった。また、歯科医師国家試験の結果から国公立、私立ともに合格率は低下しているが、私立は国公立に比べ低下率が大きい旨説明があった。さらに、受験生側からの大学の見え方として、アンケートの集計結果から志望校決定で重視する点は、入試難易度、知名度、設置学部等が多く、カリキュラムや研究内容はあまり重視されていない傾向があるとのことであった。

最後に、歯学系大学志願者の推移状況について各大学の説明があった。平成15年度から平成19年度にかけて志願者総数はさほど変化はないが、大学間での受験生の志願者数に変動があることから、今後受験生確保の方策として、入試日程、選考方法、科目設定等を今まで以上に工夫していくことが重要であるとする説明があった。当日は130名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される谷口氏（河合塾 教育研究部）：平成19年10月22日（月）千葉校舎第2教室

平成19年度職員研修実施

職員研修運営委員会が企画・運営する平成19年度職員研修会が10月26日（金）に千葉校舎にて、各施設から推薦された職員21名の参加により実施された。参加者（21名）にとって、大学職員としての自覚及び自己啓発となった研修会となり、大変有意義な研修となった。

今回の研修は「大学職員としての役割と課題」をテーマとして、本学についての知識習得をはかり、大学がおかれた状況等についての講義を受講し、意見交換することで、大学職員として

の役割について考え、何が必要か、何をすべきかを討議することにより意識改革をはかることを主な目的とした研修であった。

まず初めに第1会議室において、太田 茂法人事務課長から今回の研修の目的・内容・方法等についての説明があった後、二人一組になって参加者紹介を実施した。続いて、浦井俊夫法人経理課長による「東京歯科大学の財政状況について」をテーマに1時間の講義を受け、講義の後、参加者は3グループに分かれ、講義内容について意見交換等の討議を行った。

昼食後、大学教務課亀山 桂事務員から私大連研修会の報告と、千葉病院庶務課金安純一事務員から私立大学庶務課長会研修会の報告がそれぞれ15分間行われた。次に、グループ別に、事前学習で各自がまとめた所属する系の業務概要と業務を通して感じている問題点等の個人発表を行い、それをもとに、本学が発展していくため「大学職員として何が必要か」「どのような職員を目指すべきか」等について討議をした。

最後に、今回の研修結果をグループ別に発表、質疑応答、全体ディスカッションを行い、活発

な意見交換がなされた。

第258回大学院セミナー開催

平成19年10月29日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第258回大学院セミナーが開催された。今回は大阪大学大学院歯学研究科 人間科学研究科行動生理学の山本 隆教授を講師にお迎えし、「味覚と食行動制御機構」と題する講演をうかがった。

味覚による快・不快感の発現経路、美味しさによる満足感と脳内物質の エンドルフィンやアナンダマイドの関係、美味しさを求める欲求と報酬系経路に關与するドーパミンやGABAの関係、快感となる甘味情報と摂食中枢の活性化、食べ物の好き嫌いと学習記憶について、これまでの研究経緯と成果の詳細な説明がなされた。その中で辛味は美味ではないのに、摂取を繰り返す理由として、そのものが痛覚の刺激であるために、痛みを抑えるために エンドルフィンが放出され、慣れを生じさせるとともに、報酬系を刺激するために生ずるというメカニズムは大変好奇心をそそられ、興味の尽きない90分であった。



全体写真：平成19年10月26日(金) 千葉校舎第一会議室



講演される山本教授：平成19年10月29日(月) 千葉校舎第2教室



グループ別討議：平成19年10月26日(金) 千葉校舎会議室

平成19年度第4回水道橋病院教職員研修会開催

平成19年10月29日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて平成19年度第4回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、書誌・引用データベース「SCOPUS」の利用者講習会として、エルゼビア・ジャパン株式会社の大場郁子氏をお迎えし、ご説明いただいた。7月に千葉校舎で同様の講習会が開催されているが、今回は水道橋病院の教職員からの要望により、

別途開催することとなった。

“SCOPUS”とは、世界の4,000以上の出版社から出版される15,000以上の科学・技術・医学・社会科学のタイトルを網羅する世界最大級の書誌・引用文献データベースである。一つの論文からフルテキストを見ることが、参考論文、引用文献の確認が可能で、研究活動に幅広く利用できるものである。本講習会では、“SCOPUS”の多様な検索機能、検索結果の絞込みや並べ替えといった具体的な操作方法や、検索のヒントになるテクニック等を、実際の検索画面を用いてわかりやすくご説明いただいた。



教職員研修会風景：平成19年10月29日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール

推薦入学選考・学士編入学試験実施

平成19年11月10日（土）、千葉校舎において、平成20年度推薦入学選考・学士編入学試験が実施された。推薦入学選考では、114名（指定校制含む）の志願者があり、午前中に小論文、小テスト、午後には面接試験が行われた。学士編入学試験では、18名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。学士編入学試験の合格者は、来年度の第2学年に編入する。なお、合格者には11月14日（水）に合格通知が発送された。

第259回大学院セミナー開催

平成19年11月13日（火）午後6時より千葉校舎第2教室において、第259回大学院セミナーが開催された。今回は東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生体硬組織再生学講座歯周病学分野の和泉雄一教授を講師にお迎えして「歯周病と早産・低体重児出産との関係」と題する講演をうかがった。

歯周病と早産・低体重児出産（PLBW）の関連性は、1996年に米国のOffenbacherらによって初めて報告され、その後、数多くの臨床研究が報告されている。講演でははじめに、切迫早産の妊婦は通常出産妊婦より歯周組織健康状態が悪化していること、さらに、切迫早産/早産であった妊婦は歯周病細菌（*T. forsythia*）が高頻度で検出され、血清中のIL-8、IL-1の値が上昇していることを報告した。続いて、切迫早産妊婦を対象とした口腔衛生実地指導による介入研究の途中経過を提示しながら、歯周組織の改善度とPLBWの発現率の低下を紹介された。最後に歯周病の予防・治療・管理が単なる口腔内だけでなく、全身のヘルスプロモーションへ貢献すること、さらに子孫へのヘルスプロモーションへの第一歩であるという認識を持つことが重要であると述べられた。セミナー会場では基礎系、臨床系の教員、学生が聴講し、講演後には活発な質疑応答がなされ、多くの示唆を含む非常に有意義なセミナーであった。



講演される和泉教授：平成19年11月13日（火）、千葉校舎第2教室

平成19年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成19年度修学指導関係者・父兄個別面談会が平成19年11月17日（土）に千葉校舎（第1学年～第5学年生）、12月8日（土）に水道橋校舎（第6学年生）で開催された。第1学年から第5学年の修学指導を必要とする学生、及び第6学年の希望者を対象とし、保護者、及び学生と学年主任（クラス主任）・副主任による三者面談方式で行われた。

第68回歯科医学教育セミナー開催

平成19年11月19日(月)午後6時より千葉校舎第1教室において、第68回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯学部学生のための倫理教育 - 医療倫理の歴史から学ぶ - 」と題し、大阪歯科大学歯学部 倫理学教室 榎 則章准教授よりご講演をうかがった。

まず始めに、伝統的な医療倫理として「ヒポクラテスの誓い」と「ジュネーブ宣言」について説明がなされた。医者が自らに課した職業的倫理として人命の尊重と患者への献身を備えているべきであるということ、第二次世界大戦で行われた非人道的人体実験を反省し、そのような職業的倫理をジュネーブ宣言として世界医師会が採択したとのことである。

次に、現在の医療倫理の問題として、伝統的な医療倫理に代わる新しい医の倫理が求められている状況について説明がなされた。現代の医療をとりまく状況として、医者だけではなく多くの医療従事者も含めて診療が行われている医療のチーム化、患者の自己決定権の尊重、社会制度との関係の中で求められる医療制度、先端医療の社会的影響、人命の尊重があり、そのような背景を踏まえ、サービス業というビジネスとしての医療、高度に専門的な知識・技能を持つプロフェッションとしての医療という2つの考え方について説明があり、医療従事者は医療の専門家という立場に立ち、自らの責任において患者にとって納得のゆく医療を実践することが求められているとのことであった。

最後に、現代における患者中心の医療の中で、学生に対する倫理教育はどうあるべきかについて、従来からの医療倫理である人命の尊重と患

者への献身を教えるだけでなく、そのような態度を学生に身につけさせるためには、担当者が自ら範を示しつつ教育することが大切であるとのことであった。当日は80名近い参加者が集まり、皆熱心に耳を傾けていた。

大学院入学試験(期)実施

平成19年11月24日(土)午前9時30分から千葉校舎において、平成20年度大学院入学試験(期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、社会人特別選抜も実施され、外国語(英語)試験および口頭試問(面接)、志望講座における主科目試験・面接が行われた。本年度は志願者34名(うち社会人は3名)が受験し、11月30日(金)正午に合格者の発表が行われた。なお、期は平成20年2月16日(土)に実施される予定である。

平成19年度医学教育等関係業務功労者表彰(文部科学省)を受ける

千葉病院 准看護師 富田 純子 氏
市川総合病院 准看護師 山崎 道子 氏



表彰を受けた富田純子氏：平成19年11月30日(金)



講演される榎准教授：平成19年11月19日(月)、千葉校舎第1教室



表彰を受けた山崎道子氏：平成19年11月30日(金)

歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された千葉病院の富田純子准看護師並びに市川総合病院の山崎道子准看護師が、全国の大学より推薦された候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

富田氏は准看護師として、25年間にわたり看護業務に従事し、誠実、勤勉にて責任感も強く、常に自分に厳しく前向きに努力する姿は、後輩准看護師及び看護師たちにも信頼され、高く評価されている。

山崎氏は准看護師として、23年間にわたり看護業務に携わり、責任感が強く、信頼できる仕事をする人物である。市川総合病院中央材料室において助手を教育・指導し、業務の運営・拡大に対応し、病院の滅菌業務にも大きく貢献している。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、病院の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となったものである。

訃報 瀬端正之名誉教授ご逝去



本学名誉教授瀬端正之先生(歯科矯正学講座)は、平成19年10月8日、肺炎のため逝去された。享年77歳。

瀬端先生は昭和29年3月東京歯科大学を卒業し、ただちに同大学専攻科に入学された。その後、歯科矯正学講座助手、講師、助教授となり、さらに同48年4月には教授となられている。同51年1月には歯科矯正学講座主任教授に就任された。平成4年6月に千葉病院病院長となり、大学および地域医療の発展に尽力された。同7年定年退職され、東京歯科大学名誉教授の称号を授与され、その後も後進に対する歯科矯正学の教育と社会への啓蒙を続けられた。

先生は矯正歯科専門医教育に大きな功績を果たされた。すなわち、昭和48年および同53年の海外出張において諸外国の専門医教育の充実を知り、歯科矯正専門医育成の研修制度

を継承し、充実を図られた。以来、本学歯科矯正学講座卒業後研修課程は現在までに30期242名を輩出している。このことが日本の歯科矯正臨床の向上に果たした役割は非常に大きいと言える。

学会活動では昭和55年1月に東京矯正歯科学会会長に就任し、関東における地域歯科矯正歯科医の知識向上に取り組まれた。さらに同61年10月には日本矯正歯科学会大会長として学術大会を主催し、平成4年1月には日本矯正歯科学会副会長に就任されている。その幅広い見識と高潔なお人柄は歯科矯正学講座の後進のみならず、多くの教え子から慕われていた。

これらのご功績に対し、先生は平成19年12月には瑞宝中綬章を授与され、正五位に叙された。

生涯をかけて、大学および歯科矯正学の発展に寄与された瀬端正之先生に敬意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(末石研二)

海外交流

延世大学校歯科大学との姉妹校協定延長の締結
平成19年10月29日(月)、本学と韓国、延世大学校歯科大学との姉妹校協定延長の調印式が、延世大学校本館総長室において執り行なわれた。調印式には、本学から井上 裕理事長、金子 讓学長、佐藤 亨学生部長、加藤靖明法人庶務課長が、延世大学校歯科大学からは、池 勳商副総長兼医科大学病院長、孫 興奎副総長、朴 永哲歯科大学学長、蔡 重奎歯科病院長はじめ8名の教授が列席した。はじめに池 勳商延世大学副総長兼医科大学病院長から歓迎の辞があり、つぎに井上 裕理事長より答辞が述べられた。

両校の交流の歴史は今年で30年目となり、毎年夏に行なわれている学生交流や職員交流も行なわれ、両校の関係は、非常に親密なものになっており、延世大学校において高く評価されていることなどが述べられた。また大学院学生や臨床実習生の交流にも触れ、今後の新たな両校の関係が築かれていくことを期待するご挨拶があった。

調印式は、参列者紹介の後、姉妹校協定延長の調印署名と協約書の交換、記念品の交換、記念撮影の順序で執り行なわれ、無事に終了した。

当日は午後4時に延世大学校SEO BYOUNG IN HALLにて、前述の朴学長、蔡歯科病院長、他17名の教授、事務部長1名の出席の下、歓迎式が開催され、その後、午後4時30分から病院見学が行われた。調印式終了後は、場所を新羅ホテルに移し、歓迎晩餐会が行なわれ、本学に留学されていた先生を交え、延世大学校から14名の先生方が参

加され、今後の両校の交流について語られ、和やかな懇談が持たれた。

両校の姉妹校協定延長は恙無く終了し、11月1日(木)仁川空港から帰国の途に着いた。



姉妹校協定延長締結式で記念撮影（前列左より金子学長、井上理事長、池延世大学副総長、孫延世大学副総長、朴歯科大学学長）：平成19年10月29日(月)、韓国延世大学校



姉妹校協定延長締結式後の晩餐会にて：平成19年10月29日(月)、韓国新羅ホテル

学生会ニュース

2007日中歯科学学生交流事業

国際医療研究会の田中らいらさんと廣内英智君は、海外スタディーツアーとして平成19年8月9日(木)～8月19日(日)の11日間の日程で中国の上海、成都、西安、北京を訪れた。この事業は外務省、日本歯科医師会、日本歯科医学会、在中華人民共和国日本国大使館、管轄の領事館などから

後援を受け、東京歯科大学、神奈川歯科大学、北海道大学歯学部、東京医科歯科大学歯学部からなる訪中団を結成し実施された。

日中歯科学学生間の交流を目的に、中国の国家重点口腔医学院である上海交通大学口腔医学院・四川大学華西口腔医学院・第四軍医大学口腔医学院・北京大学口腔医学院の4校を訪問した。最初

の訪問地となる上海の上海交通大学口腔医学院では、相互理解と交流を目的に“日中歯科学学生交流会”を開催した。次の訪問地、成都では四川大学華西口腔医学院の学生と共に、成都から車で3時間余り離れた無歯科医村に行き歯科保健指導をした。この地に外国人が入りボランティア活動をするのは初の試みであり、地元テレビ局による同行取材も受けた。また、両親が都市に出稼ぎに行ってしまった“留守児童”の施設に教科書の贈呈をした。西安では東京歯科大学の姉妹校である第四軍医学大学を訪問し姉妹校交流会を開催した。2005年に姉妹校締結をして以来、教員や研修者間の交流は行われてきたが、学生間の交流は初めてであった。

最後の訪問地である北京では日本大使館に表敬訪問をし、本事業の認定のお礼と実施状況の説明を行った。北京大学口腔医学院では今回の事業を総括し、今後の日中両国の歯科学学生の友好関係の継続を確認するための“日中歯科学学生学術交流会”を開催した。両国の学生が自国の歯科事情について発表し、活発な討議が行われた。

本事業は学生同士の文化交流・学術意見交換・歯科保健活動を行うことにより、今まで実施されなかった日中歯科学学生間の交流を図るものである。本事業を通して学生達は、将来国際社会における歯科医師として必要な広い視野を得たことだろう。

「スタディーツアーを終えて」

田中らいら学生代表(国際医療研究会)

東京歯科大学国際医療研究会は、今年で設立10周年を迎えました。本事業は外務省2007日中文化・スポーツ交流年事業として認定され、初めて他大学と共催で行われました。

今回、言葉も文化も違う中国で多くのものを見て、触れて、考えてきました。思想も生い立ちも異なる人たちとの交流はとても刺激的で、また様々な場面で考えさせられました。私は特に農村で出会った子供達の笑顔が忘れられません。高等教育を受けられない事を不憫に思われようが、日本とは全く違う生活水準に驚かれようが、彼らはそんなこと関係なく、我々に屈託の無い笑顔を向けてくれるのです。彼らの中には私達とは違う価値観があり、毎日を楽しく過ごしているのです。何が正しく何が正しくない

のではなく、世の中には様々な人がいて、様々な価値観があるということです。普段、小さな集団の中にいると、つい自分の小さなものさしで世界を図ろうとしてしまいます。しかし世界は大きくて自分の小さなものさしでは図りきれないということを思い知らされました。

私たちは普段大学の中を主として生活しています。しかし社会の変化に適応し、そして将来歯科医師として活躍するためには、もっと広い世界を見て視野を広げなければなりません。今後もスタディーツアーが続き更に発展し、多くの学生に、広い世界を見る機会を与えてほしいと思います。最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えてくださった方々、本当にありがとうございました。



日中歯科学学生交流事業、参加者一同(右から2人目が田中さん、左から3人目が廣内君)：平成19年8月17日(金) 中国・北京



地元のテレビ局に同行取材を受ける参加学生：平成19年8月12日(日) 中国・成都(資中県双峰寺村)

第39回歯学体報告会開催

第39回歯科学学生総合体育大会報告会が、平成19年10月2日(火)午後6時30分より千葉校舎厚生棟1階食堂において歯学体参加19部門のクラブ学生と教職員を集めて開催された。

まず始めに、各参加クラブが結果報告、並びに来年への抱負を述べ、金子児太郎歯学体評議委員より、総合で4位入賞した旨の報告があった。

次に学長賞として「剣道部」「硬式庭球部」「バレーボール部」「軟式庭球部」が表彰され、学長特別賞として「水泳部」が表彰された。その後、金子 譲学長より祝辞をいただき、薬師寺 仁副学長の音頭で乾杯をし、懇親会へと移った。当日は、壁面に歯学体の写真が映写され、参加学生は自分のクラブの写真が映されるたびに歓声を上げていた。



成績報告もユニフォームに身を包んで：平成19年10月2日（火）千葉校舎厚生棟1階食堂



金子学長より「学長賞」を授与される剣道部員：平成19年10月2日（火）千葉校舎厚生棟1階食堂

本学管弦楽部創立80周年記念演奏会開催

本学管弦楽部は、昭和2年(1927年)に創部され、今年創部80周年を迎えた。これを記念した演奏会が平成19年11月23日(金)、本学千葉校舎講堂において、多くの聴衆の来場を得て盛大に行われた。

主将の増岡郁子さん(第4学年)を中心とした現役部員による企画・運営のもと、指揮：鎌田由紀夫、ピアノ独奏：松岡直子の両氏との共演により、グリーグ作曲のピアノ協奏曲、ドヴォルザーク作曲

の交響曲第9番「新世界より」、シベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」と、本年同じく制定80周年となる本学校歌とを演奏し、いずれも大きな喝采を得た。

戦後再開された定期演奏会としては30回目にあたるこの演奏会には、管弦楽部OB会の多面的支援があったが、昭和28年卒の多胡 彬先生(OB会名誉会長)や弘前市開業の板垣光信先生など、年代・遠近を越えた多くの演奏参加を得ていることが、加藤広之管弦楽部部長から聴衆に紹介された。

現役学生部員、OB・OGに加え、歴代部員の対外交流によって培われた関東医科学生オーケストラ連盟の協力奏者により、ステージに溢れんばかりの奏者84名を数える大オーケストラの演奏は、記念演奏会に相応しい華やかなもので、聴衆を魅了し、演目終了後も鳴りやまぬ拍手に、オーケストラはアンコール演奏で応え、演奏会を終えた。

演奏会后、厚生棟第一食堂にて創立80周年記念祝賀会が行われた。スタッフ・聴衆を加え、百数十名の出席を得て、輝かしい管弦楽部の歴史と演奏会成功とを賑やかに祝う会となった。



グリーグ作曲のピアノ協奏曲(独奏：松岡氏、指揮：鎌田氏)を演奏する管弦楽部：平成19年11月23日(金)千葉校舎講堂



“演奏後、喝采を受ける指揮者の鎌田氏とコンサートミストレス、水谷鮎子さん(前列左から2番目)、他の部員達：平成19年11月23日(金)千葉校舎講堂

図書館から

本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

井出吉信・阿部伸一 ほか編著 「臨床に活かす！
歯と口腔のビジュアルガイド」

(デンタルハイジーン別冊) 医歯薬出版 2007

山根源之 ほか編著 「チェアサイドで活用する
最新口腔粘膜疾患の診かた」

(日本歯科評論 増刊2007)ヒョーロン 2007

一戸達也 ほか編 「Q&A歯科のくすりがわか
る本2008」(歯界展望別冊)医歯薬出版 2007

本学教員の著書については、特に収集に努めて
おります。著書発刊のおりにはご寄贈のほど、よろし
くお願いいたします。

千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館 紹介展参加

平成19年11月1日(木)～11月11日(日)の期間、
千葉市生涯学習センターにおいて、公共図書館・
大学図書館をはじめとする千葉市内の様々な図書
館・図書室を紹介する展示会が開催された。当館
も図書館紹介のポスター展示を行い、100部以上
用意した利用案内もそのほとんどを持ち帰ってい
ただけるなど、多くの利用者の関心を集めた。

「医中誌Web」講習会開催

平成19年11月20日(火)午後6時より千葉校舎第
2教室において、「医中誌Web」利用者講習会を開
催した。「医中誌Web」は医学・歯学・薬学および
関連領域の国内雑誌に掲載された論文のデータ



「医中誌Web」講習会風景：平成19年11月20日(火)
千葉校舎第2教室

ベースで、1983年から検索することができる。今
回は基本操作と新しい機能クリップボードなどの
説明を中心に実習形式を取り入れて行った。当日
は専任講師を招いて約1時間にわたり講習を行い、
教職員や学生約40名の参加があった。

「医中誌Web」は、千葉・市川・水道橋の3キャン
パスから、学内限定でご利用することができる。
(ご利用は大学図書館ホームページからお入りく
ださい)

東歯祭の期間中、大学史料室を一般公開

東歯祭が行われた11月3日(土)・4日(日)の2日
間、例年通り図書館1階にある大学史料室を一般
公開した。史料室では現在倉庫内の資料整理を
進めており、これにより発見された血脇先生愛
用の品(万年筆・ステッキ・義歯等)など五十数
点の史料を今回追加展示した。加えてロビーに
創立者高山先生・建学者血脇先生を紹介するポ
スター及び、「大学周辺風景今昔」と題して大学
移転当時(昭和56年9月)と現在の航空写真などを
比較展示し、来館者の興味を惹いていた。期間
中、来場者は約250名にのぼり大変盛況であった。

大学史料室から 史料室収蔵品紹介

「血脇校長還暦祝賀式ならびに運動会」(写真)



大小の血脇先生が微笑んでいる：昭和5年10月20日、
芝公園にて

歯科衛生士専門学校ニュース

歯科衛生士専門学校登院式挙行

歯科衛生士専門学校第2学年第58期生の登院式が、平成19年10月1日(月)午前11時から千葉校舎第2教室において、石井拓男千葉病院長、高野伸夫歯科衛生士部長、尾谷始子歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

橋本貞充学生部長の司会によって開式され、まず眞木吉信副校長の呼名により、登院生一人一人が紹介された。初めに下野正基校長が臨床実習に臨む心構えを訓辞、引き続き来賓として臨席された石井千葉病院長が祝辞を述べられた。その後、登院生44名を代表して亀井明奈さんが誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



祝辞を述べる石井千葉病院長：平成19年10月1日(月)、千葉校舎第2教室



緊張した面持ちで訓辞を聞く登院生：平成19年10月1日(月)、千葉校舎第2教室

平成20年度推薦入学選考

歯科衛生士専門学校の平成20年度推薦入学選考が、平成19年10月31日(水)に千葉校舎において実施された。募集人員40名の約半数を推薦に

より入学させるものであり、本年は県内から39名、他県から9名の48名が高等学校長の推薦により、また、本年度からは、新たな試みとして社会人特別選抜をおこない、県内から4名他から1名の合計53名が受験した。選考内容は、高等学校長推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は、自己推薦書および書類による審査と小論文および面接であった。入学選考は、午前9時30分から始まり、午後4時にはすべてが終了した。なお、合格者は、11月2日(金)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長に通知された。

第3学年修学旅行

歯科衛生士専門学校第3学年第57期生は、11月15日(木)、16日(金)の1泊2日の日程で、修学旅行へと出掛けた。朝8時半、さわやかな秋の陽射しのなか、留守番の先生たちに見送られ、千葉校舎から富士急ハイランドをめざしてバスで出発した。高速道路の向こう側に雄大な富士山が姿を現すと、車内は歓声であふれ、思いはすでにお目当てのギネス級ジェットコースター「FUJIYAMA」をはじめとする数々のアトラクション。エントランスでの記念撮影もそこそこに思いおもいのエキサイティングな時間を過ごした。遊び疲れたからだをバスのシートにもたれかけ、夕暮れの河口湖畔に建つホテル「風のテラス」KUKUNAに到着。ホテルのベランダからは、残照の残る空の向うにくっきりと富士山が浮かび、静かな湖面に優雅な姿を写していた。最上階にある露天風呂から雄大な風景と満天の星空を眺めたあとは、お楽しみの大宴会。旅行委員たちのすばらしい演出で、歌とダンスと最高に盛り上がった思い出深い夜を過ごした。それぞれの部屋に戻ったあとも、夜遅くまで明かりが消えることはなかった。

翌朝、眠い目をこすりながらの朝食のあと、一路、富士山の五合目をめざして出掛けたのだが、昨日とは打って変わってあいにくの雨空。ちょっとガッカリしたところで、バスガイドさんから、ひょっとすると富士山の上では晴れた空が見えるかも、という言葉に励まされてのぼっていくと、

五合目に到着する直前に突然、陽が差し、窓からは青空と一面の雲海が見えて、車内は大歓声。バスの外は氷点下で、木々には霧氷がつき、陽の光にきらきらと輝いていた。富士山の頂上に思いを馳せて記念写真を撮り、今度は甲府のぶどう園へ。名物の「ほうとう」をおなかいっぱい食べたあと、小さいけれど洒落たワイナリー「ロリアンワイン」を訪れ、葡萄畑でつまみ食いをした後、工場を見学し、自分たちでワインを瓶詰めしてラベルを描き、自分だけのMy Wineづくりを楽しんだ。



歯科衛生士専門学校第57期生、修学旅行：平成19年11月16日（金）富士山五合目



歯科衛生士専門学校第57期生、修学旅行：平成19年11月16日（金）武田神社

そして、最後は、修学旅行の一番の目的でもある合格祈願。色鮮やかな紅葉で彩られた、武田信玄ゆかりの甲斐武田神社に参詣し、厳肅な雰囲気の中、お祓いを受け、全員合格を誓い合った。溢れるような美しい紅葉の境内を散策し、3年生最後の修学旅行に思いをよせ、たくさんの思い出を胸一杯に詰め込み、千葉へと向うバスに乗り込んだ。

卒業研究論文発表会

歯科衛生士専門学校では、修業年限の2年から3年への移行にともなって、卒業研究論文の作成を教育カリキュラムにとりいれている。卒業研究は、学生たち、一人一人が問題を発見し、疑問に持っていることを研究テーマとし、各講座の卒業研究論文担当者の指導のもと、2年間をかけて、研究テーマの設定や論文資料の収集、研究の立案や研究方法の選択、そして実際の実験やフィールド調査などをおこない、データを解析して論文にまとめ上げるものである。

このような問題発見/問題解決と研究成果の発表を通して得られる貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって返ってくるものと確信できる。

卒業研究の第2回目となる本年は、第57期3年生全員の研究が300ページにおよぶ卒業研究論文集としてまとめられ、11月20日付で発行されると共に、11月22日（木）には、千葉校舎の講堂で、歯科衛生士専門学校の第1学年、第2学年、第3学年の全員と、論文指導教員やその他の参加者を集め、卒業研究論文発表会が開催された。

発表会は、下野正基校長の開催挨拶で始まり、午前9時から午後5時まで、一演題あたり6分間のプレゼンテーションと、2分間の質疑応答を含め、



卒業研究論文発表会の風景：平成19年11月22日（木）千葉校舎講堂

座長の進行のもと、学会形式での発表と活発な討議が行われた。

研究テーマには、ブラークの付着やブラッシング、ホワイトニング後の歯質の変化やフッ化物の効果などの実験による研究や、レーザー治療やインプラント治療、小中学生の口腔衛生習慣や要介護高齢者の口腔ケア、歯科衛生士業務の認知度等についてのフィールド調査など、多彩で興味を引く演題が並び、3年間の学生生活の総まとめとして、緊張の中にも自信を持った堂々とした発表がおこなわれた。

全45演題の発表は嶋村一郎教務部長と橋本貞充学生部長の総評で締めくくられ、全員での記念撮影の後、午後6時より、厚生棟の2階でささやかな懇親会を開催して、研究の成果について意見をか

わすとともにそれまでの苦労や努力をお互いにねぎらいながら、なごやかで楽しい時間を過ごし、緊張と達成感が混ざりあった、3年生たちの長い一日が終わった。



発表会終了後の開放感に満ちた集合写真：平成19年11月22日（木）千葉校舎講堂

人物往来

国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

茨城歯科専門学校(学生48名、教員2名)

平成19年10月3日(水)解剖学教室、病院、他見学

さいたま赤十字看護専門学校(学生47名、教員2名)

平成19年10月17日(水)解剖標本室、病院、他見学

三河歯科衛生専門学校(学生49名、教員3名)

平成19年10月26日(金)解剖標本室見学

関東鍼灸専門学校(学生69名、教員3名)

平成19年11月8日(木)解剖学教室見学

大宮歯科衛生士専門学校(学生39名、教員3名)

平成19年11月15日(木)解剖学教室、病院、他見学

聖和看護専門学校(学生15名、教員2名)

平成19年11月20日(火)解剖学教室見学

横浜市立盲特別支援学校(学生23名、教員10名)

平成19年11月22日(木)解剖実習指導、解剖標本室見学

海外出張

スルタン・ゼブ・カーン大学院生(臨床検査) FDI Annual World Dental Congressへ参加及び、Khyber College of Dentistry Peshawar NWFP, Pakistanに訪問、研究打ち合わせのため、平成19年10月5日(金)から11月9日(金)までアラブ首長国連邦・ドバイ、パキスタン・ペシャワールへ出張。

丸茂 健教授(市病・泌尿器科)

第11回アジア・太平洋性機能学会に参加及び発表のため、平成19年10月5日(金)から10日(水)まで、韓国・済州島へ出張。

番 裕美子レジデント(市病・眼科)

イリノイ大学にて開催される慶應義塾大学眼科プログラムに参加のため、平成19年10月6日(土)から22日(月)まで、アメリカ・イリノイへ出張。

金子 譲学長、佐野 司教授(歯科放射線)、渡辺 賢 法人庶務課員

メリーランド大学歯学部及び野口英世別荘の視察のため、平成19年10月7日(日)から14日(日)まで、アメリカ・ボルチモア、ニューヨークへ出張。

柴原孝彦教授、高木多加志准教授、笠原清弘

講師、片倉 朗講師、浜瀬真紀助教、黒岩 司大学院生、矢島哲郎大学院生(口腔外科)

第1回日米韓口腔顎顔面外科学会合同学術大会に参加及び発表のため、柴原教授、笠原講師、片倉講師、浜瀬助教、黒岩大学院生、矢島大学院生は平成19年10月10日(水)から10月15日(月)まで、高木准教授は10月9日(火)から10月15日(月)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

山根源之教授、外木守雄准教授、小澤靖弘講師、宮本 郷大学院生(市病・オーラルメディシン・口腔外科)

第1回日米韓口腔顎顔面外科学会合同学術大会に参加及び発表のため、山根教授、外木准教授、宮本大学院生は平成19年10月10日(水)から10月15日(月)まで、小澤講師は10月9日(火)から10月15日(月)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

柿澤 卓教授、高野正行准教授、高崎義人助教、高久勇一朗助教(水病・口腔健康臨床科学)

第1回日米韓口腔顎顔面外科学会合同学術大会に参加及び発表のため、柿澤教授、高久助教は平成19年10月10日(水)から10月14日(日)まで、高野准教授は10月8日(月)から10月14日(日)まで、高崎助教は10月9日(火)から10月14日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

東 俊文教授(生化)

第1回日米韓口腔顎顔面外科学会合同学術大会に参加及び発表のため、平成19年10月10日(水)から10月14日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

石上恵一教授(スポーツ歯学)

Kyung Hee Univ. College of Dentistryで講義のため、及び延世大学Moon-Kyu Chung教授と研究打ち合わせのため、平成19年10月11日(木)から14日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

小坂橋俊哉教授、印南靖志助教、富永亜紀臨床専修医(市病・麻酔科)

2007年度アメリカ麻酔学会に参加及び発表のため、平成19年10月12日(金)から17日(水)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

小田 豊教授(歯科理工)

第43回ISO/TC106ベルリン会議に日本SC議長ならびに日本WG議長として出席のため、平成19年10月13日(土)から22日(月)まで、ドイツ・ベルリンへ出張。

櫻井 学講師(歯科麻酔)

American Society of Anesthesiologists, Annual Meetingに参加及び発表のため、平成19年10月13日(土)から17日(水)まで、アメリカ・カリフォルニアへ出張。

阿部伸一准教授(解剖)

台北医科大学口腔医学院竣工式典と記念祝賀会に出席するため、また竣工記念シンポジウムで講演を行うため、そして、台北医科大学同窓会主催の学術講演会において講演を行うため、平成19年10月17日(水)から21日(日)まで、台湾・台北へ出張。

下野正基教授(病理)

第95回FDI年次世界歯科大学にFDI理事として参加のため、平成19年10月19日(金)から28日(日)まで、アラブ首長国連邦・ドバイへ出張。

井上 孝教授(臨床検査)

第95回FDI年次世界歯科大学へ参加のため、平成19年10月19日(金)から27日(土)まで、アラブ首長国連邦・ドバイへ出張。

佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)

第95回FDI年次世界歯科大学へ参加及び招待講演のため、平成19年10月21日(日)から27日(土)まで、アラブ首長国連邦・ドバイへ出張。

山田 了教授(歯周病)

第93回アメリカ歯周病学会と日本歯周病学会とのJoint Meetingに関する事前打ち合わせのため、平成19年10月26日(金)から31日(水)まで、アメリカ・ワシントンへ出張。

井上 裕理事長、金子 譲学長、佐藤 亨学生部長、加藤靖明法人庶務課長

延世大学校歯科大学との姉妹校関係延長の協定調印のため、平成19年10月29日(月)から11月1日(木)まで、韓国・ソウルへ出張。

佐竹良之講師(市病・眼科)

The Annual Ophthalmology Congress of Turkish Ophthalmological Societyに参加のため、平成19年10月29日(月)から11月4日(日)まで、トルコ・アンタリアへ出張。

上田貴之講師(有床義歯補綴)

補綴歯科臨床関連の研究及び、大学院生教育の調査のため、平成19年11月1日(木)スイス連邦・ベルンへ出発。帰国は平成20年10月31日(金)の予定。(長期海外出張)

平井義人教授、加藤純二講師(保存修復)
第17回国際レーザー医学会に参加及び発表のため、平成19年11月6日(火)から12日(月)まで、イタリア・フローレンスへ出張。

伊藤太一助教、古谷義隆助教(口腔インプラント)
World Congress for Oral Implantology 7 and American Academy of Implant Dentistry 2007で発表のため、平成19年11月6日(火)から12日(月)まで、アメリカ・ラスベガスへ出張。

ハッ橋孝彰講師、土屋 通レジデント(歯内療法)
World Congress for Oral Implantology 7 and American Academy of Implant Dentistry 2007で発表のため、平成19年11月7日(水)から、ハッ橋講師は13日(火)まで、土屋レジデントは14日(水)まで、アメリカ・ラスベガスへ出張。

高崎義人助教、山村哲生レジデント(水病・口腔健康臨床科学)

第18回国際口腔顎顔面外科学会に参加及び発表のため、平成19年11月13日(火)から19日(月)まで、インド・バンガロールへ出張。

柳澤孝彰教授(口腔超微構造)

第30回中華牙医学会で招待講演のため、平成19年11月15日(木)から18日(日)まで、台湾・台北へ出張。

金子 讓学長、河田英司教授(歯科理工)

金子学長はInternational Dental School Cooperation Meetingで講演を行うため、河田教授は学長随行として、平成19年11月18日(日)から21日(水)まで、タイ・バンコクへ出張。

天野大地大学院生(有床義歯補綴)

国際歯科材料会議2007で発表のため、平成19年11月18日(日)から24日(土)まで、タイ・バンコクへ出張。

明石 豪助教、末森 豪大学院生(保存修復)

国際歯科材料会議2007に参加及び発表のため、平成19年11月20日(火)から26日(月)まで、タイ・バンコクへ出張。

小田 豊教授、河田英司教授、吉成正雄准教授、服部雅之講師、武本真治助教、牛込利彰大学院生、河野 敬大学院生(歯科理工)

平成19年度秋期 第50回日本歯科理工学会学術講演会ならびに、国際歯科材料会議2007に参加及び発表のため、小田教授、河田教授、吉成准教授、武本助教、牛込大学院生、河野大学院生は平

成19年11月21日(水)から25日(日)まで、服部講師は平成19年11月20日(火)から25日(日)まで、タイ・バンコクへ出張。

井上 孝国際渉外部長、佐野 司教授(歯科放射線)
第四軍医大学との姉妹校関係協定書の附則に関する打ち合わせならびに講演のため、平成19年11月22日(木)から11月25日(日)まで、中国・西安へ出張。

内山健志教授(口腔外科)

International Foundation of Cleft Lip and Palate Workshop 2007で招待講演を行うため、平成19年11月24日(土)から27日(火)まで、中国・北京へ出張。

内山健志教授、須賀賢一郎講師、渡邊 章レジデント(口腔外科)

口唇口蓋裂など先天異常児の医療援助、技術指導及び、学術調査のため、平成19年11月27日(火)から12月8日(土)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。

柳澤孝彰教授(口腔超微構造)

6th Vietnam Scientific Dental Congress and International Exhibitionで招待講演を行うため、平成19年11月27日(火)から12月2日(日)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。

白石 建教授、山根淳一助教(市病・整形外科)

Cervical Spine Research Societyで発表及び、白石教授は教育研修講演の講師として、平成19年11月27日(火)から12月3日(月)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

澤田 隆准教授(口腔超微構造)

第47回米国細胞生物学会に参加及び発表のため、平成19年11月30日(金)から12月6日(木)まで、アメリカ・ワシントンへ出張。

大学日誌

平成19年10月

- | | | | |
|-------|--|----------|--|
| 1(月) | 1・2・3・4年生後期授業開始
給食委員会
学年主任・クラス主任会
歯科衛生士専門学校登院式
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 | 16(火) | 看護部運営会議(市病) |
| 2(火) | 第256回大学院セミナー
第39回歯学体報告会
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始
看護部運営会議(市病) | 17(水) | 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
第257回大学院セミナー
学生部(課)事務連絡会 |
| 3(水) | リスクマネージメント部会
ICT会議
教務部(課)事務連絡会
千葉校舎課長会
検査室委員会(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病) | 18(木) | 千葉校舎課長会
業務連絡会
先進医療委員会
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
医療ガス安全管理委員会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) |
| 6(土) | 入試ガイダンス(水道橋校舎) | 19(金) | 科学研究費補助金学内締切 |
| 9(火) | 院内褥瘡対策委員会(市病) | 20(土) | 第284回東歯学会(総会)(~21日) |
| 10(水) | 大学院事務連絡会
図書委員会
救急委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
薬事委員会(水病)
リスクマネージメント部会(水病)
感染予防指導チーム委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(市病) | 22(月) | 医療連携委員会
第67回歯科医学教育セミナー
機器等安全自主点検日
平成19年度医療監視(市病) |
| 11(木) | 手術室運営委員会(市病) | 23(火) | 教養科目協議会 |
| 12(金) | CPR + AED講習会(市病) | 24(水) | 病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
院内情報システム検討委員会(水病) |
| 13(土) | 第21回カリキュラム研修ワークショップ
(~14日) | 25(木) | 院内感染症予防対策委員会(市病) |
| 15(月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日 | 26(金) | 職員研修
社保委員会(水病) |
| 16(火) | 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会 | 27(土) | 平成20年度第4回看護師採用選考試験 |
| | | 29(月) | 第258回大学院セミナー |
| | | 30(火) | データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 |
| | | 31(水) | 情報システム管理委員会
歯科衛生士専門学校推薦入学選考 |
| | | 平成19年11月 | |
| | | 1(木) | 推薦入学選考・学士編入学試験願書受付開始
省エネルギーの日・防災安全自主点検日 |

- | | |
|---|---|
| <p>2(金) 教職員インフルエンザ予防接種
(11/2.6.8.13.20)
大学院事務連絡会
歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会
ICT委員会(市病)</p> <p>3(土) 第39回東歯祭(～4日)
入試ガイダンス(於:千葉校舎)</p> <p>5(月) 教務部(課)事務連絡会
第1回予算編成打合せ会(水病)</p> <p>6(火) 看護部運営会議(市病)</p> <p>7(水) 振替授業(月曜日分)
推薦入学選考・学士編入学試験願書受付締切
学生インフルエンザ予防接種(1～6年生)
リスクマネジメント部会
ICT会議
基礎教授連絡会
千葉校舎課長会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
口腔健康臨床科学講座会(水病)</p> <p>8(木) 薬事委員会(市病)
手術室運営委員会(市病)</p> <p>9(金) CPR + AED講習会(市病)</p> <p>10(土) 推薦入学選考・学士編入学試験(於:
千葉校舎)</p> <p>12(月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会</p> <p>13(火) 学生インフルエンザ予防接種(1～6年生)
第259回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校職員会
院内褥瘡対策委員会(市病)</p> <p>14(水) 臨床教授連絡会
講座主任教授会(推薦入学・学士編入学判定を含む)
人事委員会
学生部(課)事務連絡会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
救急委員会(市病)</p> | <p>14(水) 薬事委員会(水病)
リスクマネジメント部会(水病)
感染予防指導チーム委員会(水病)</p> <p>15(木) 業務連絡会
先進医療委員会
歯科衛生士専門学校3年生修学旅行(～16日)
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
部長会(市病)
管理診療委員会(市病)
東京都エイズ診療従事者臨床研修(～16日)(水病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病)</p> <p>17(土) 修学指導関係者・父兄個別面談会(1～6年生)</p> <p>19(月) 第68回歯科医学教育セミナー</p> <p>20(火) 振替授業(金曜日分)
教養科目協議会
医中誌web利用者講習会
機器等安全自主点検日
看護部運営会議(市病)</p> <p>22(木) 保険診療検討委員会(市病)
院内感染症予防対策委員会(市病)
理事会(法人)</p> <p>24(土) 大学院入学試験(期)</p> <p>26(月) 6年生第3回総合学力試験(～27日)
大学院運営委員会(臨時)</p> <p>27(火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会</p> <p>28(水) 千葉校舎課長会
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病)
院内情報システム検討委員会(水病)</p> <p>30(金) 大学院入学試験(期)合格発表
千葉病院医療連携協議会
社保委員会(水病)</p> |
|---|---|

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成19年11月現在）

編集後記

平成19年を表す漢字は「偽」だそうです。確かに連日、「偽装」「偽造」「虚偽」「偽証」等々、「偽」に纏わる記事が新聞紙面を賑わしていた感があります。バブル崩壊に伴う不況の中で、会社の収益や保身のために社会に対して様々なことを偽り続けた結果が、一気に曝かれた年だったのでしょうか。わずか一年で、今まで隠されていた「偽」が全て明らかになったとは思えませんが、平成20年は新聞紙面から「偽」が消え、「真」の文字が躍るような社会になると信じましょう。

さて、今回の巻末写真は旧市川グラウンドのポプラ並木です。このポプラ並木を見て、皆さんは何を思い出すでしょうか。ポプラの葉色が季節の移り変わりを告げているのに気付かず、水道橋で待ち構えている厳しい学部生活は、まだまだ先の事と高をくって毎日をenjoyしていた進学課程でしょうか。それとも、運動部に所属していた方々には、市川で行なわれた大学生活初めての夏合宿でしょうか。厳しい練習の後、ポプラの木陰に涼を求め、疲労困憊で大の字になって休んでいる時にかぎって、上級生に道具の手入れやグラウンド整備などを命じられ、「何も、今でなくとも…」と舌打ちをした苦い思い出がある方々も少なくはないでしょう。

「偽」とは無縁であった市川での思い出を大切にしながら、あのポプラに負けないぐらいの高い目標を持って平成20年を実り多き年にしたいものです。

（ 広報・公開講座部長：内山健志 ）
（ 広報編集委員：米津博文 ）



大学広報はPDF版をオンラインで閲覧することができます。
<http://www.tdc.ac.jp/news/index.html>